広 島 県 感 染 症 発 生 動 向 月 報

[広島県感染症予防研究調査会]
（平成１６年９月解析分）

１　疾患別定点情報

定点把握（週報）五類感染症　　平成16年８月分(平成16年８月2日～8月29日：４週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
1	インフルエンザ	0	0.00	0.00		12	ヘルパンギーナ	292	0.78	1.64	↗
2	ＲＳウイルス感染症	5	0.01	－		13	麻しん	3	0.01	0.08	
3	咽頭結膜熱	263	0.70	0.52	↗	14	流行性耳下腺炎	351	0.94	0.84	⇨
4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	128	0.34	0.34	⇘	15	急性出血性結膜炎	8	0.08	0.06	
5	感染性胃腸炎	1,069	2.85	2.02	⇘	16	流行性角結膜炎	146	1.46	1.40	↗
6	水痘	109	0.29	0.61	⇘	17	細菌性髄膜炎	3	0.03	0.01	
7	手足口病	102	0.27	1.47	↑	18	無菌性髄膜炎	12	0.11	0.23	↑
8	伝染性紅斑	55	0.15	0.17	⇘	19	マイコプラズマ肺炎	12	0.11	0.16	↘
9	突発性発しん	226	0.60	0.90	⇨	20	クラミジア肺炎	0	－	0.00	
10	百日咳	6	0.02	0.02		21	成人麻疹	0	－	0.00	
11	風しん	2	0.01	0.02							

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	⇨	⇨
↓	↘	⇘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	殆ど増減なし（発生件数少数のものを含む）

※定点について
　定点情報は，定点把握対象の五類感染症（週報対象 21 疾患，月報対象 7 疾患）について，県内 188 の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1～14	15，16	22～25	17～21，26～28	
定点数	45	75	20	27	21	188

定点把握（月報）五類感染症　　平成16年８月分（８月1日～８月31日）

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	65	2.41	2.43	⇨	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	101	4.81	－	⇘
23	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.67	0.56	⬆	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	26	1.24	－	⇨
24	尖圭コンジローマ	13	0.48	0.36	⇗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	10	0.48	－	⇗
25	淋菌感染症	23	0.85	1.10	⇗						

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

○ Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　急減（7月316件⇒8月128件）
○ 水痘　急減（7月270件⇒8月109件）
○ ヘルパンギーナ　急減（7月1,270件⇒8月292件）
○ 性器ヘルペスウイルス感染症　急増（7月9件⇒8月18件）

２　一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

○ 一類感染症　発生なし
○ 二類感染症　2件発生（細菌性赤痢2件（広島市保健所管内，福山市保健所管内））
○ 三類感染症　33件発生（腸管出血性大腸菌感染症(O157 27件(広島市保健所管内14件，福山市保健所管内2件，呉市保健所管内2件，東広島地域保健所管内7件，尾三地域保健所館内1件，広島地域保健所館内1件），O26 6件(広島地域保健所管内1件，備北地域保健所管内1件，広島市保健所管内4件))
○ 四類感染症　1件発生（デング熱1件（広島市保健所管内））
○ 全数把握五類感染症　4件発生（後天性免疫不全症候群2件（広島市保健所管内），アメーバ赤痢1件（広島市保健所管内）ウイルス性肝炎（Ｃ型）1件（広島市保健所管内））

３　一般情報

○ 流行性角結膜炎

平成15年は７月に多発したが，本年は，７月，８月と高めで推移している。

① この病気の感染経路は，涙液，眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染であることから，閉鎖された空間を共有した場合に多発する傾向にある。
② 潜伏期間は1週間から2週間で発症する。
③ 症状は2週間程度続く。発症は急に眼脂，流涙から始まり眼瞼結膜の強い充血と濾胞が見られ，眼瞼の腫脹をともなう。症状が激しい場合は，結膜下の小出血，結膜浮腫，偽膜を呈することがある。乳幼児では偽膜性結膜炎を起こす，片眼から発症し数日を経て他の眼に感染して行くことが多い。また，耳前リンパ節腫脹がある。
④ 原因ウイルスは，アデノウイルスＤ群の８・１９・３７型に加え，Ｅ群4型，Ｂ群の３・１１型などがある。
⑤ 治療としては，特異的な治療はないが，発症時は細菌の混合感染を防ぐ目的で，抗菌剤の点眼，非ステロイド系の消炎薬の点眼を行う。
⑥ 感染予防としては，眼からの分泌物は，ティッシュペーパーなどを使用し除去して直接手に触れないことや手洗いを励行する。

○ 風しんの予防接種を受けましょう

風しんは県内で多発している状況にはありませんが，妊娠初期の女性が風しんに罹患すると出生児が，「先天性風しん症候群（ＣＲＳ）」を発生することがありますので注意が必要です。

【風しん】：風しんウイルスに感染してから１４～２１日の潜伏期間の後，発熱とともに全身に淡い発疹が出現し通常３日程度で消失するので，一般には「三日ばしか」と言われております。
【先天性風しん症候群】：妊娠初期の女性が風しんに罹患すると，出生児が本疾患を発生することがあります。妊娠２ケ月以内の女性が風しんに罹患すると，出生児は白内障，先天性の心臓疾患，難聴の２つ以上を持って生まれてくることが多く，妊娠３～５ケ月に感染した場合でも難聴が多く見られます。
【予防接種】：市町村が実施する定期予防接種を生後１２月～生後９０月までは無料（一部有料の市町村もあります）で受けることができます。国の調査で１９７９年（昭和５４年）４月２日～１９８７年（昭和６２年）１０月１日生まれの人で，現在１６歳～２４歳の年齢層を中心に，接種率が低いといわれております。
【予防接種にあたり注意すること】：①女性の場合は妊娠していないことが明らかで，接種後は最低２ケ月は，避妊が必要です。②妊娠している場合は，予防接種ができないので，人ごみを避け感染を防ぎましょう。

※　平成１６年８月「風疹流行及び先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言」が風疹流行にともなう母子感染の予防対策構築に関する研究者から提言がなされております。次の点に留意してください。

①妊婦への感染を防ぐためには，家族の予防が重要です。妊婦の風疹ＨＩ抗体が陰性又は抵抗体価（ＨＩ価１６以下が低い場合は，早急に夫，子供その他の同居家族は風疹の予防接種を受けてください。
②産褥早期の女性で抗体価が陰性及び低抗体価の人も接種を受けることを勧めます。
③風疹抗体陽性者にワクチンを接種しても特に問題はありません。

○ インフルエンザの予防接種を受けましょう

インフルエンザの流行は，例年１１月～１２月にかけて始まり，１月下旬から２月上旬をピークに４月上旬頃まで続きます。１０月に入り各医療機関で予防接種を受けることができますので事前に予約して接種してください。

平成１５年に発生した重症急性呼吸器症候群（ＳＡＲＳ）の再流行の可能性があり，初期症状が類似していることから，重症化するとインフルエンザと混同される可能性もあります。また，本年当初発生した高病原性鳥インフルエンザは鳥から人への感染がみられますが，人から人への感染した例はありません。しかし　動物の体内で遺伝子交換が行われ，人から人への感染が起こることが危惧されております。これらのことから，インフルエンザの予防接種を早めに受けましょう。